

こども病院ひろば

編集 医療サービス課 〒420-8660 静岡市葵区漆山 860 TEL: 054-247-6251 (代表) FAX: 054-247-6259 (直通)

平成26年度を迎えて

～ 独立行政法人第1期中期計画を終えて ～

風薫る季節も瞬く間に過ぎ、早や夏日の到来です。地球規模の温暖化が急速に進んでいることを実感するこの頃です。しばらく病院ひろばの発行が滞りましたが、今年度から季刊として病院情報をお送りします。

平成21年4月に当院は独立行政法人に変わり、この春をもって、第1期5年が終了しました。県の直営時代と何が変わったかと問われますと、公的医療機関ながら経営の自由度がやや広がったことでしょうか。人事採用も自前でできるようになりました。予算の組み方にも現場の意見を取り入れて、柔軟に執行できるようになりました。このように主体性が高まったことは、裏を返せば、さらに効率的な経営を行い、一層質の高い医療を県民に届けるという自己責任が強まったと認識しております。総括すれば、平成19年から始まった病院の構造改革、診療機能の強化が実現できた5年間であったと思います。

新規のものとしては、PICUの存在が定着し、高次救急患者の受け入れが全県から極めてスムーズに行われています。新設された産科も地域に根を下ろしました。母体搬送も増え、静岡市の産科救急の過半数を受け入れています。組織再編により加わったところの診療科も順調な歩みを続けています。児童精神領域の医療ニーズが年々増え、外来、入院ともにフル稼働で頑張っています。昨年には、救急総合診療科がERを開設しました。まだ受診者が多いとは言えませんが、全時間帯の受診が容易になったことで、中部、東部の小児救急の幅広い受け皿となり、セーフティネットの役割を発揮することを期待しています。高度専門医療、周産期医療、救急医療、こころの医療の4本柱が整い、全国的にも数少ない真に総合的機能を有する小児病院となりました。今後も静岡県小児医療の最後の砦の役割を果たしてまいります。

今年度から始まる第2期では、いくつかのプロジェクトを計画しています。まず、三十数年経過し老朽化した外来棟を建て替えます。今年から2年間の予定で工事に入り、患者さんにとって利便性、アメニティーに溢れたものを作ります。日進月歩の医療の進歩に対応するため、超音波診断の充実を図るための外来エコーセンター開設、主に循環器の外科と内科が同時進行で治療するハイブリット手術室の設置、移植医療や再生医療に対応するための細胞処理室の新設、医療者教育を進展充実させるためのラーニングセンターの設置等を計画しています。また、地域支援のための人材派遣を活発に行ってきましたが、これからも、さらに拡充して、地域医療を直接的に支えてまいりたいと考えております。

新たな年度を迎え、皆様方には一層のご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

院長 瀬戸 嗣郎

news 病院機能評価 高い評価で認定されました！

昨年10月24日、25日の二日間にわたり、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。7人のサーベイヤーによるきめ細かな部署調査やヒアリングには緊張の連続でしたが、指摘事項が無ければかりか、予想以上に高い評価で、特に、集中治療、救急医療、栄養管理の機能については、最高のS(秀でている)をいただきました。この評価を励みにして、さらに良好な医療の提供に努めてまいります。



新任科長挨拶

今年度、新たに3人の診療科長が就任しました。誌面を借りて、皆様に御挨拶申し上げます。

☆☆☆ 血液腫瘍科長 渡邊 健一郎 ☆☆☆

拝啓 若葉の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年4月より、静岡県立こども病院血液腫瘍科に科長として着任いたしました渡邊健一郎と申します。前任の京都大学発達小児科では、長年にわたり、小児血液・腫瘍疾患の臨床、研究、教育に従事してまいりました。これまでの経験を生かし、小児血液・腫瘍疾患の県内及び東海地域における中核施設として、さらに充実した質の高い医療を提供できるよう、当科一丸となって取り組んでいく所存でございます。先生方との連携を一層緊密にし、静岡県の小児医療の発展に貢献したいと考えております。小児血液・腫瘍疾患に関するご相談や疑われる症例がございましたら、どうぞ何時でも、ご連絡並びにご紹介いただけましたら幸甚に存じます。

今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



☆☆☆ 泌尿器科長 濱野 敦 ☆☆☆

泌尿器科の濱野敦と申します。横浜市立大学泌尿器科学講座の派遣で2006年の4月に当科入職し、丸8年が経過しました。このたび前科長河村秀樹先生の後任を務めさせて頂くこととなりました。泌尿器科医師は2名体制で変わらず、4月より同講座から派遣された中村真波先生が赴任されました。

当科の年間手術件数は約200件、同紹介新患数約400件でほぼ変わらず推移しており、大半の小児泌尿器科領域手術を遂行できる必要最低人数と考えられる2名の医師で開院以来担われております。この診療を維持できているのは、ひとえに、当科での加療を必要とする患者さんを見逃さず適切に紹介していただき、またかかりつけ医でのフォローを要する患者さんの逆紹介を快く引き受けてくださる先生方、殊に県内の小児科と泌尿器科の先生方のご指導ご協力によるものと考えております。この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

最近の小児泌尿器科に限らず、泌尿器科診療の大きな変化として、医用工学技術の向上に伴う体腔鏡手術、ロボット支援手術の開発、普及が第一に挙げられます。小児領域でも従来からの腹腔鏡下腎盂形成術、腎摘出術に加え、2012年の改訂で腹腔鏡下停留精巣陰嚢内固定術が保険適応となり、当科でも同年より導入してまいりました。従来であれば摘出を余儀なくされていた腹腔内停留精巣を、温存、固定することが、しかも開腹手術に比してきわめて小さな手術創で可能になり、すでに少なからぬ患者さんがその恩恵を受けている状況です。

このことは一例に過ぎませんが、県内唯一の小児医療専門施設の泌尿器科として、世界的水準を常に意識して、より高度な知識、技術を患者さんにご提供し、診療から得られる情報をよく学び取り、新しい知見を当科から発信できるようこれからも精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



☆☆☆ 麻酔科長 奥山 克巳 ☆☆☆

初めまして、奥山克巳49歳です。私は山梨大学医学部付属病院臨床教育センター(特任准教授;専門:麻酔科)から2014年4月に静岡県立こども病院麻酔科医長に着任いたしました。山梨県出身で山梨県立甲府西高校卒業後、福井医科大学(現福井大学)医学部に入学し、山梨医科大学(現山梨大学)麻酔科に入局しました。入局後は、長野県・東京都・静岡県・佐賀県の病院で研修させて頂き、3月まで山梨大学で麻酔科医として勤務してきました。今まで諸先生にご指導いただきましたが、特に故堀本洋先生には小児麻酔の楽しさと厳しさを教えて頂き感銘したのを今でも鮮明に覚えています。故堀本先生は日本の小児麻酔を牽引していく立場であったため、昨年2月の急逝には大きな驚きと残念な気持ちで一杯です。心からご冥福をお祈り申し上げます。



当院での麻酔科のテーマのひとつが、こどもたちが“不安なく手術が受けられまた痛くない”麻酔管理を行う事です。そのため、幼少児には手術前に鎮静薬の投与をおこない年少者には看護師やチャイルドライフスペシャリストの協力により術前に手術室を訪問してもらい室内の見学や医療器具の説明などを行い、手術や麻酔に対する不安を親共々最大限に取り除く配慮をしています。術後の痛みに対しても積極的に硬膜外ブロック・静脈内鎮痛法など各種鎮痛法を駆使し、痛くない術後を提供しています。また、MRI検査時の鎮静や痛みを伴う処置時の鎮痛鎮静など手術麻酔ばかりではなく手術室外での麻酔科医の関わりも積極的に行い、さらなる小児の医療の安全・快適性の向上に努めていきたいと考えています。小児に対する緩和ケアは全国的にもまだ始まったばかりです。今後は小児麻酔科医も積極的に小児の緩和ケアに関与していくべきであると考えておりますが、慢性的な人手不足もありこれからの課題と考えています。

麻酔科のスタッフ共々、我が国の小児医療に少しでも貢献できるよう頑張っていきたいと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

施設整備計画

静岡県立病院機構では、平成21年4月の発足以来、5年単位の中期計画により、目標とする診療内容や施設の整備方針等を定めて計画的に実行しています。平成26年度は、第2期中期計画の初年度に当たりますが、重要な施設整備が目白押しであり、猛烈なスタートダッシュが必要です。今年度の主要な施設整備の概要について紹介します。

◆外来診療部門の充実

年々増加する外来患者数に対応するため、新たな外来棟を建設するとともに、既存外来の大改修を行います。新棟は機能面を重視し、医療ガス配管やIT機器の設置環境を充実・整備します。さらに、LED照明を多用することによって省エネ化を図ります。既存外来は、単に老朽化対策に留まらず、患者さんがくつろげるアメニティスペースや図書スペースも設けるなど現代の病院にふさわしい施設に生まれ変わります。新棟の工事は、5月に着工、来年2月頃完成、既存外来の改修は平成27年度中の完成を目指しています。

新外来棟の外観イメージ



インテリアデザインのイメージ フロアごとに海、山、空などのテーマを設定して壁やドアがデザインされます。

◆ハイブリッド手術室の整備

ハイブリッド手術室では、心臓血管や脳血管疾患等の内科的な検査・治療と外科手術を同時に実施することができるよう、これまで以上に安全な検査、治療を行うことが可能です。当院では、既存のカテーテル検査・治療室を改造し、ハイブリッド手術室として整備します。主に成人を対象とする一般病院では普及が進んでいますが、小児専門病院では、全国トップクラスの導入になります。

◆エコーセンターの設置

これまで、心臓エコーは検査室が狭く、腹部エコー検査は外来から離れた場所で行われており、患者さんにご不便をお掛けしましたが、1階のX線検査室の隣に十分な広さを持つエコーセンターを設け、機器を集約することにより、患者サービスの向上を図ります。

組織改正・人事異動情報

●診療部・診療科の名称変更

平成26年度の組織改正により、次のとおり、診療部名・診療科名(院内標榜)を見直しました。

第1診療部 → 内科系診療部 第2診療部 → 外科系診療部 (新設)こころの診療部
 新生児未熟児科 → 新生児科 発達心療内科 → 発達小児科 (新設)臨床検査科

●人事異動

平成26年度の人事異動により、表1のとおり、職員の採用・退職・転入・転出がありました。

4月1日現在の主要な医師は、表2のとおりです。

表1 職種別人事異動一覧

3/31、4/1現在

職種	退職	転出	採用	転入
医師	11	0	13	0
看護師	6	9	56	7
コメディカル	2	2	3	2
事務	1	7	3	5

表2 役職別主要医師一覧(診療科長以上)

H26.4.1現在

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
院長	瀬戸 嗣郎	腎臓内科	和田 尚宏	発達小児科	山崎 透*
副院長	小野 安生	免疫・アレルギー科	木村 光明*	こころの診療科	山崎 透*
副院長	朴 修三	神経科	愛波 秀男	【室長】	
副院長	坂本 喜三郎	循環器科	小野 安生*	医療安全室	小野 安生*
内科系診療部長	小野 安生*	小児集中治療科	植田 育也	感染対策室	木村 光明*
外科系診療部長	朴 修三*	皮膚科	—	チーム医療推進室	奥山 克己*
こころの診療部長	山崎 透	放射線科	—	地域医療連携室	愛波 秀男*
診療支援部長	木村 光明	臨床検査科	河村 秀樹	小児がん相談室	漆原 直人*
【センター長】		小児外科	漆原 直人	臨床研究室	渡邊 健一郎*
周産期センター	西口 富三	心臓血管外科	坂本 喜三郎*	治験管理室	田代 弦*
新生児センター	田中 靖彦	循環器集中治療科	大崎 真樹	国際交流室	坂本 喜三郎*
循環器センター	坂本 喜三郎*	脳神経外科	田代 弦	医師研修推進室	加藤 寛幸*
小児集中治療センター	植田 育也	整形外科	滝川 一晴	ボランティア活動支援室	上松 あゆ美*
小児救急センター	加藤 寛幸	形成外科	朴 修三*	診療情報管理室	河村 秀樹*
予防接種センター	木村 光明*	眼科	—	ITシステム管理室	河村 秀樹*
【診療科長】		耳鼻いんこう科	—	輸血管理室	堀越 泰雄*
救急総合診療科	加藤 寛幸*	泌尿器科	濱野 敦	臨床工学室	大崎 真樹*
新生児科	田中 靖彦*	産科	西口 富三*	成育支援室	和田 尚宏*
血液腫瘍科	渡邊 健一郎	歯科	加藤 光剛	リハビリテーション室	滝川 一晴*
遺伝染色体科	石切山 敏	麻酔科	奥山 克己	心理療法室	山崎 透*
内分泌代謝科	上松 あゆ美	臨床病理科	堀越 泰雄	栄養管理室	和田 尚宏*

注：[*]は兼務を示す。

●講演会・セミナーのお知らせ●

オープンセミナー

*平成26年7月3日(木) 18:30～ 場所:静岡県立こども病院 大会議室
 「昏くて深い麻酔の海」 麻酔科 梶田 博史 医長

感染対策講演会

*平成26年7月9日(水) 18:00～ 場所:静岡県立こども病院 大会議室
 「眠れなくなる耐性菌の話」 長野県立こども病院 小児集中治療科 副部長 笹井 正志 先生